

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年12月に「3期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

令和3年度は民間による賑わい創出の一環として、中心市街地にある遊休不動産を舞台にしてDIYをプロから学ぶ実践講座を実施。市民の学習とDIYを通じたコミュニティ形成による中心市街地のにぎわい創出に寄与した。また、参加者が遊休不動産に関わることで、地域で活躍する設計士・建築士・不動産とつながり、中心市街地への新規出店や居住の増加が期待できる。

JR松江駅周辺から殿町周辺までのL字ラインに賑わいの動線をつくるため、「歴史・文化・水辺を活かす6つの交流ゾーン」を設定した中心市街地エリアビジョン（市民と共有するL字ラインの未来地図）を策定した。官民が連携し今後のまちづくりの目標となる将来像を市民と共有していく。

エリア・リノベーションを推進するため「水の都松江のまちのRe-project」に取り組み、リノベーションスクールの開催、リノベーションまちづくりガイドラインの策定を行った。既存ストックを活かした新たなまちづくりが中心市街地に広がっていくことが期待される。

一方で、中心市街地の人口は依然として減少しており、商店街における営業店舗数も減少傾向にあるため、まちの活気が失われないよう各種事業を着実に実施していくことが重要である。

令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症により松江市においても大きく影響を受けたところであり、感染状況を注視しながら、中心市街地の活性化に向けて官民が一体となって取り組み、今後事業効果を最大限に高めることで活気の創出、中心市街地の活性化を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

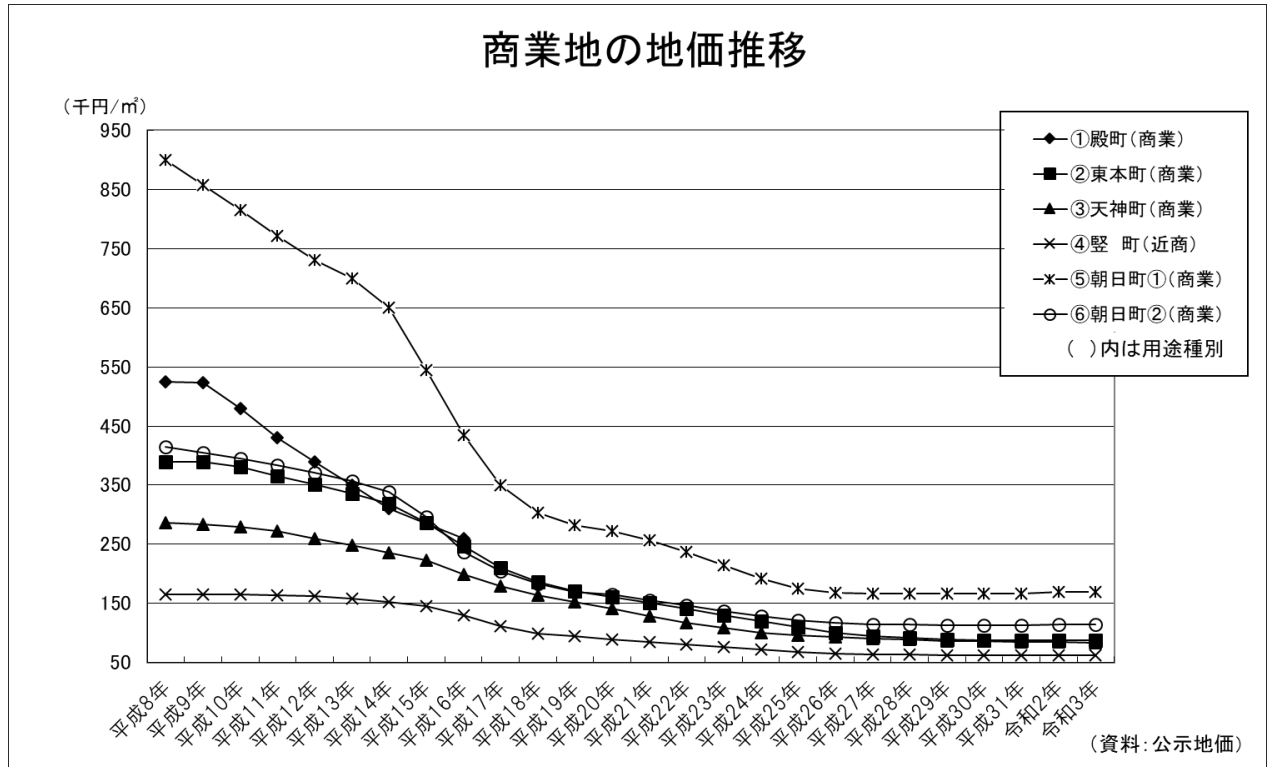
（基準日：毎年度1月1日）

(1) 居住人口

（中心市街地 区域）	平成30年 度（計画前 年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）	令和6年度 （6年目）
人口	7,548人	7,411人	7,253人	7,161人			

人口増減数	-100人	-137人	-159人	-92人			
自然増減数	-83人	-89人	-69人	-98人			
社会増減数	-17人	-49人	-89人	6人			
転入者数	291人	297人	241人	277人			

(2) 地価



**2. 令和3年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

今年度は、新型コロナウイルス感染症ならびに変異株『オミクロン株』の感染拡大防止の取組みにより、昨年度に引き続き基本計画の事業推進は大きな影響を受けた。このような情勢の中において、3期松江市中心市街地活性化基本計画に掲げる指標を達成することを目的に、松江市と協議会で定期的に連絡会議（事務担当者会議）を開催するとともに、若手中心で組織する「運営委員会」を中心に、松江市が作成する「中心市街地エリアビジョン」の検証を重ね承認を行うなど、官民が密接な連携のもとコロナ禍における商う空間の創出に取り組んだ。

また、『まちづくりコーディネーター・サポーター』の活動により、松江市・商店会・町内会自治会と連携した取組みにより、空店舗・空き家活用の利活用促進や諸会合出席等による情報収集を行い、補助金活用など必要に応じたアドバイスを実施し、まちづくりを推進した。

今後も官民一体となり各種事業を着実に実行し、事業効果を最大限に発揮し中心市街地の魅力向上を目指していく。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	30件 (H26~30年度累計)	53件 (R元年12月~7年3月累計)	26件 (R元年12月~4年3月累計)	C	①	①
	(※補完指標) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日2日間)	20,060人 (H30年度)	23,066人 (R6年度)	12,691人 (R3年度)	C	①	①
水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水辺の公共空間の活用日数	548日 (H26~30年度累計)	948日 (R元年12月~7年3月累計)	737日 (R元年12月~4年3月累計)	B	①	①
	(※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数	431千人 (H30年度)	497千人 (R6年度)	5千人 (R3年度)	C	1	1
歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	43千人 (H30年)	65千人 (R6年)	1千人 (R3年)	C	2	2
	中心市街地内の宿泊客数	1,269千人 (H30年)	1,374千人 (R6年)	674千人 (R3年)	C	2	2

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

## 2. 目標達成見通しの理由

「遊休不動産の事業化件数」については、令和2年度にチャレンジショップ事業の対象エリア拡大等を実施したことが大きく寄与し、令和3年度は13件の活用があった。「水の都松江のまちのRe-project」事業のさらなる進展とチャレンジショップ支援事業の推進により、目標達成は可能であると考えている。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、前年から7,445人減の12,691人であった。新型コロナウイルス感染症の影響における外出自粛の影響が大きいと考えている。今後は、主要事業の効果発現によりまちなかの回遊性が向上し、通行量が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の活用日数」については、令和3年は前年から46日増加し、368日であった。新型コロナウイルス感染症の影響は続いていたが、感染対策を講じながらイベントを実施したことにより、イベント数や活用日数の増加につながったものと考えられる。主要事業の効果がまだ十分に発現されていないものの、「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により水辺空間の利活用が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の来訪者数」については、令和2年から1,070人減の5,470人となった。令和3年は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、いわゆる「密」になるような大規模イベントが実施できず、イベント等による来訪者数は令和2年から微減となった。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和2年から3,300人減の1,000人となった。令和2年は新型コロナウイルスの影響が顕著に表れた3月から減少し、外国人宿泊客数に影響を受けたが、令和3年は1年通して影響を受けたため前年からの減少となった。今後も、長引く新型コロナウイルス感染症の影響拡大による入国制限等、世界的に移動が制限されることも想定され厳しい状況となっている。

「中心市街地内の宿泊客数」については674千人となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和2年3月以降からの大幅な落ち込みが現在も続いており、県や市独自の回復キャンペーン等の誘客施策を展開しているものの、依然として厳しい状況となっている。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響の収束期を見据えた、ハード面など受入れ環境整備を引き続き進めていき、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。

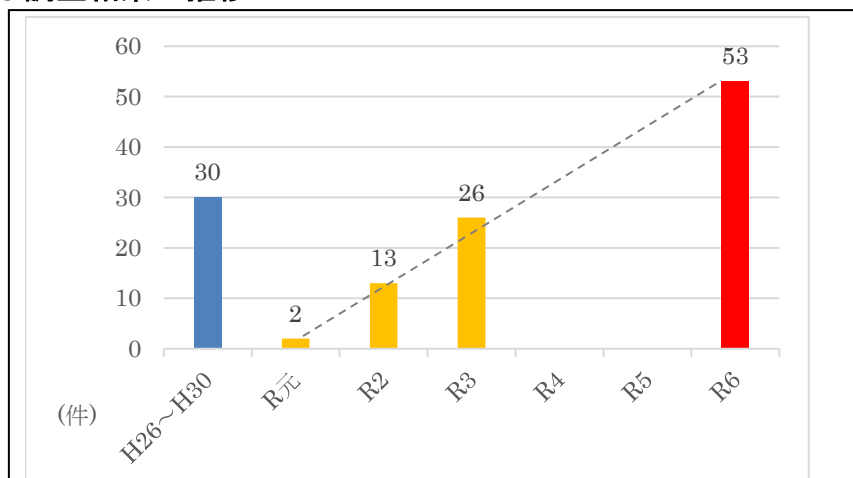
## 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更なし

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「遊休不動産の事業化件数」※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

##### ●調査結果の推移



年	(件)
H30	30 (基準年値) (H26~30 累計)
R元	2 (年間 2)
R2	13 (年間 11)
R3	26 (年間 13)
R4	
R5	
R6	53 (目標値) (R元. 12~7.3 累計)

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

##### 〈分析内容〉

遊休不動産の事業化件数に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

後述するチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことが大きく寄与した結果、事業化件数が13件となり、期待された効果が発現している。

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和3年度]
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】15件（累計） 【最新値】0件（累計） 令和2年度に引き続き、令和3年度も「リノベーションスクール@松江」を開催した。令和3年度中に実事業化に至った件数はなかったものの、令和3年度スクール提案事業について実事業化に向けて調整中である。

事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4年度以降も引き続き「水の都松江のまちのRe-project」を実施予定。これまでに実施した「リノベーションスクール」での提案事業の実事業化に向けたブラッシュアップを進めると共に、令和3年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」を活用し、リノベーションまちづくりの啓発を行い、遊休不動産の実事業化促進を図る。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年6月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6件（累計） 【最新値】1件（累計） 新型コロナウイルス感染症の影響は続いているが、令和2年度と比較すると利用実績は増加傾向にある。チャレンジカフェ利用者から1件の起業及び空き家・空き店舗を活用した出店へと繋げることが出来ている。
事業の今後について	SNS や利用者の口コミにより徐々に周知されてきている。特にチャレンジカフェについては3日に1日ペースでの利用があり、今後もチャレンジショップ支援事業と連携して、起業及び空き家・空き店舗を活用した出店へつなげていくことが期待できる。

③. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】11件 令和2年度よりチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和2年の事業化件数10件に対し、令和3年度は事業化件数が11件となり、前年に引き続き目標値を上回った。期待された効果が発現している。

事業の今後について	補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。
-----------	------------------------------------------------

④. 伊勢宮界限元気プロジェクト（松江新大橋商店街振興組合、株式会社伊勢宮界限元気プロジェクト）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致や地域資源を活かしたソフト事業等の実施により、魅力的なまちづくりを推進し、誘客の促進と地域コミュニティの再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】2 件 テナントミックス事業において 2 件の出店があり、事業効果の発現ができています。「ソフト事業」については、新型コロナウイルスの影響によりイベントの中止が相次いだ。
事業の今後について	平成 24 年度にテナントミックス事業として整備した 6 件が令和 3 年の 2 件の出店により、全て活用されることとなった。今後は、空き店舗問い合わせ窓口と周辺商店街、チャレンジショップ支援事業との連携を図り、更なる事業化を図る。

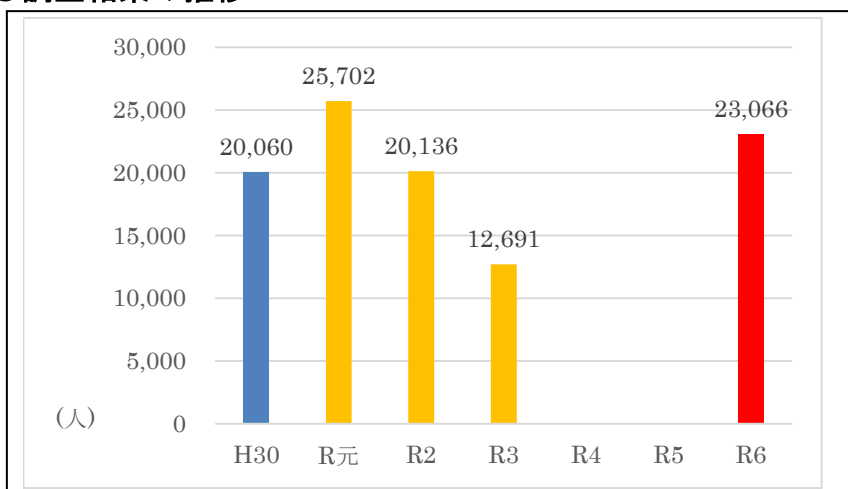
●目標達成の見通し及び今後の対策

「遊休不動産の事業化件数」については、主要事業は概ね順調に進捗している。「チャレンジショップ支援事業」については、令和 2 年度から中心市街地商店街としている要件を基本計画で設定された区域内に拡大し、面的な活性化を図っている。併せて空き店舗等の遊休不動産の活用を推進する。

また、「水の都松江のまちの Re-project」については、これまでに実施した「リノベーションスクール」での提案事業の実事業化に向けたブラッシュアップを進めると共に、令和 3 年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」を活用し、リノベーションまちづくりの啓発を行うことで、チャレンジしやすい環境づくりと遊休不動産オーナーの理解促進を図り、引き続きの遊休不動産実事業化を進め、まちなかの再生と市域全体の活性化を目指す。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H30	20,060 (基準年値)
R元	25,702
R2	20,136
R3	12,691
R4	
R5	
R6	23,066 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年10～11月の平日・休日に、市内9地点において11時～18時で計測

※調査月：10～11月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の9地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅前輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側、小泉八雲記念館前）における歩行者及び自転車の通行量

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

「チャレンジショップ支援事業」は対象エリアを拡大し、事業化件数11件と好調に推移したことから通行量の増加に寄与したものと考えている。

通行量は新型コロナウイルス感染症の影響により当初想定していた事業が実施出来なかったため、期待された効果が発現出来なかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出自粛及び移動の制限、旅行マインドの低下が原因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project（松江市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】 [認定基本計画：令和元年度～令和3年度]
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。



国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】1,200人</p> <p>【最新値】0人</p> <p>令和2年度に引き続き、令和3年度も「リノベーションスクール@松江」を開催した。令和3年度内に実事業化に至った件数がなかったことから、通行量の増加にはつながらなかったが、令和3年度スクール提案事業について実事業化に向けて調整中である。そのようなコンテンツ創出を推進することで、今後の通行量の増加に寄与するものと考えられる。</p>
事業の今後について	<p>地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4年度以降も引き続き「水の都松江のまちのRe-project」を実施予定。これまでに実施した「リノベーションスクール」での提案事業の実事業化に向けたブラッシュアップを進めると共に、令和3年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」を活用し、リノベーションまちづくりの啓発を行い、遊休不動産の実事業化促進を図ることで、今後まちに新たなコンテンツが創出され、通行量の増加につながるものとする。</p>

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	<p>民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】80人</p> <p>【最新値】30人</p> <p>令和元年6月にオープンし、シェアオフィスやチャレンジカフェ、ゲストハウスを運営している。</p> <p>令和3年はチャレンジカフェ利用者の起業に繋げることができたことに加え、30人の通行量増加に寄与し、周辺の賑わいや回遊性の向上にも貢献した。</p>
事業の今後について	<p>SNSを活用し「SUETUGU」の周知徹底を図ることで利用者を増やし、地域の人や観光客、起業家などが交流することを通じてまちなかの活性化を目指し、1日当たりの来店客数を増加させることで通行量の増加を図る。また、チャレンジカフェ利用者から1件の起業及び空き家・空き店舗を活用した出店があり、通行量の増加が期待でき</p>

	る。
--	----

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】100人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和3年度についても、長引く新型コロナウイルス感染症の影響で外出・旅行マインドが依然として低下していることもあり、通行量についても目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	常に最新情報を発信できるデジタルサイネージや大型観光マップを活用して、今後の周辺エリアの通行量増加、まちあるき観光の推進に繋げていく。

④. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない チャレンジショップ支援事業の対象エリア拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和3年度は事業化件数が11件となり、通行量の増加に寄与したものとする。
事業の今後について	補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

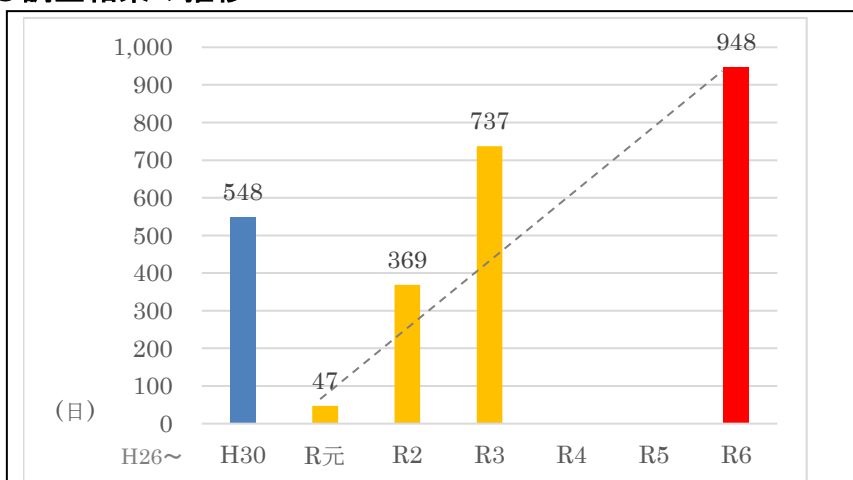
●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、主要事業は概ね順調に進捗している。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった令和元年度実績から見ても、最終的に目標達成は可能であると考えられる。しかしながら新型コロナウイルス感染症の今後の先行きが見えないことから、ウィズコロナ・アフターコロナを想定して、今後も官民連携して各事業に取り

組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の活用日数」 ※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

●調査結果の推移



年	(日)
H30	548 (基準年値) (H26～30 累計)
R元	47 (年間 47)
R2	369 (年間 322)
R3	737 (年間 368)
R4	
R5	
R6	948 (目標値) (R元.12～7.3 累計)

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計

〈分析内容〉

水辺の公共空間の活用日数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

松江市民レガッタ（令和2年度より開催場所を区域外としている）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっている。また「水の音楽祭」も市民団体による音楽イベントを企画していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっている。大規模イベントが中止となる中、水辺利活用社会実験「ふゆぞら food truck グルメパーク」や「ミズベリング縁日」を実施。また民間による水辺の公共空間の活用が増え令和2年を上回る結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベリング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】20日/年 【最新値】15日 令和3年度においては、伊勢宮港湾緑地で水辺利活用社会実験「ふ

	ゆぞら food truck グルメパーク」や、10月に「ミズベリング縁日」を開催することで、水辺の公共空間の活用日数の増加に貢献した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントの中止もあり、目標値には届かなかった。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～11年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画事業（白潟地区（第1期））（国土交通省）（令和2年度～6年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】4日/年 【最新値】20日 令和3年度は、大橋川沿岸市道の電線類地中化（詳細設計）や景観照明整備（設計）、歩行空間整備（設計）、住宅等修景支援、大橋川改修事業用地における社会実験、都市計画道路の整備計画のある白潟本町通りにおける交通社会実験に取り組んだ。
事業の今後について	令和4年度は、歩行空間整備・美装化工事、住宅等修景支援、社会実験を行うこととしている。これらにより、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭（水の都音楽祭市民実行委員会）

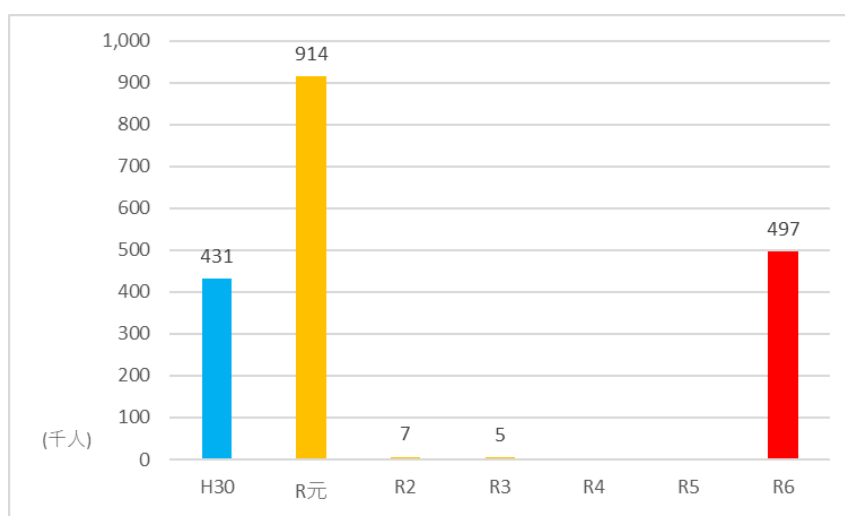
事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0日 令和3年11月に週末に市民団体による音楽イベントを企画していたものの、新型コロナウイルスの影響により中止となった。
事業の今後について	水の都であることを幅広く発信するため、水辺空間の利活用としてサンセットカフェ等と音楽が融合した取り組みを実施していくことで、目標達成に取り組んでいく。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の活用日数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であるとする。新型コロナウイルスの影響により活用日数を減らすのではなく、分散開催等により活用日数の増加につなげていく。また事業効果をさらに高めていくために、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、民間事業者と連携した社会実験など、官民連携により取り組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の来訪者数」※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

## ●調査結果の推移



年	(千人)
H30	431 (基準年値)
R元	914
R2	7
R3	5
R4	
R5	
R6	497 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

### 〈分析内容〉

水辺の公共空間の来訪者数の増加に向けた各事業について、水辺の活用日数は前年から46日増加したものの、来訪者数については前年から微減し依然として新型コロナウイルスの影響を受けており、厳しい状況が続いている。

水辺の活用日数の増加要因は30日間のウォーキングイベントが実施され増加に大きく寄与した一方で、後述する市民参加からなる音楽イベントが新型コロナウイルス感染防止の観点から開催中止となるなど、当初目標値を設定した際と同様な形式で実施することができなかった。また、松江水郷祭をはじめとする各種イベントが中止となったことが来訪者数減少の原因であると考えられる。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベ

	リング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】5,000人 【最新値】950人 令和3年度においては、伊勢宮港湾緑地で、水辺利活用社会実験「ふゆぞら food truck グルメパーク」や、10月に「ミズベリング縁日」を開催した。最新値は目標値を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により規模縮小開催したことや中止になったイベントが原因であると考えられる。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいくことで水辺の来訪者数を増加させていく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～11年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画（白潟地区（第1期））（国土交通省）（令和2年度～6年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,000人 【最新値】1,050人 電線類の地中化（詳細設計）、住宅等修景支援、松江大橋南詰の大橋川改修事業用地や、白潟本町通りの歩道を活用した社会実験に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症のまん延による外出控えの影響や、市道の歩行空間整備、交流拠点整備には未着手であったがまちづくりに関心のある市民有志や事業者等のプレイヤーによる社会実験への参画、出店があるなど、賑わいにつながる動きがみられ、目標の達成に至った。
事業の今後について	歩行空間の美装化整備工事、住宅等修景支援、歩道・広場を活用し社会実験を行うことで、周辺の水辺の来訪者数増加につなげる。

③. 水の都音楽祭（松江市）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということをも音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的

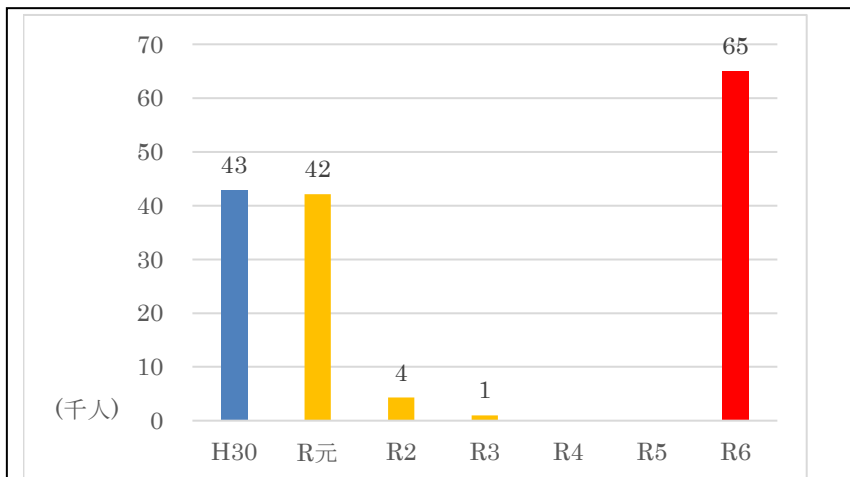
	とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】60,000人 【最新値】0人 令和元年度は11月の2日間で開催し、延べ40,000人が参加。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止のため10月と11月の10日間に分散して開催し、合計630人が参加。 令和3年11月に週末に市民団体による音楽イベントを企画していたものの、新型コロナウイルスの影響により中止となり、目標値に届かなかった。
事業の今後について	水の都であることを幅広く発信するため、水辺空間の利活用としてサンセットカフェ等と音楽が融合した取り組みを実施していくことで、目標達成に取り組んでいく。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の来訪者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、松江水郷祭（令和元年参加者数480千人、令和2年度・令和3年度中止）をはじめとする各種イベントが中止になったことが影響している。一方、水辺の公共空間の活用日数は増加傾向のため、新型コロナウイルス感染症の影響が完全に収束したあとには、目標達成は可能であると考えられる。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

### ●調査結果の推移



年	(千人)
H30	43 (基準年値)
R元	42
R2	4
R3	1
R4	
R5	
R6	65 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

### 〈分析内容〉

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和2年から3千人減の1千人となった。令

和2年は新型コロナウイルスの影響が顕著に表れた3月から減少し、外国人宿泊客数に影響を受けたが、令和3年は1年通して影響を受けたため前年からの減少となった。今後も、長引く新型コロナウイルス感染症の影響拡大による入国制限等、世界的に移動が制限されることも想定され厳しい状況となっている。

その他事業である「松江水燈路」や「松江水郷祭」「国宝松江城マラソン」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、「外国人滞在型観光促進事業補助金」も実績はなく、外国人宿泊客数の増加にはつながらなかった。「外国人観光客モニター事業」は、年間で1,140人に対し助成を行ったものの、外国人宿泊客数の大きな伸びには繋がらなかった。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 通年で松江城等の常設化ライトアップ整備を行い夜の魅力を創出した。またおせわさんプロジェクト等への事業補助を行い体験コンテンツの創出をした。しかし、令和2年度・令和3年度とも新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの入国制限がかかっていたため、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図る。

### ②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの



	総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 令和3年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの入国制限が継続されており、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も前年以上に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	情報発信機能の地盤を強化していくことで、コロナ収束後に外国からの旅行客受入ができる状況になれば、外国人宿泊客数増加に効果が発現してくることが期待される。

### ③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6,000人 【最新値】140人 外国人誘客対策事業として、欧米豪、台湾、香港、上海等への海外プロモーションを行った。また、WEBによる観光コース紹介や、SNSによる情報発信を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客数は大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界とのさらなる連携強化によってスケールメリットを活かした観光誘客を推進していく。

### ④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～【未着手】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が2件進み、令和4年春頃にオープン予定。
事業の今後について	令和4年春頃にオープン予定である宿泊施設が稼働することにより、近隣の温泉地でなく中心市街地への宿泊客増に繋がるものと考えられる。

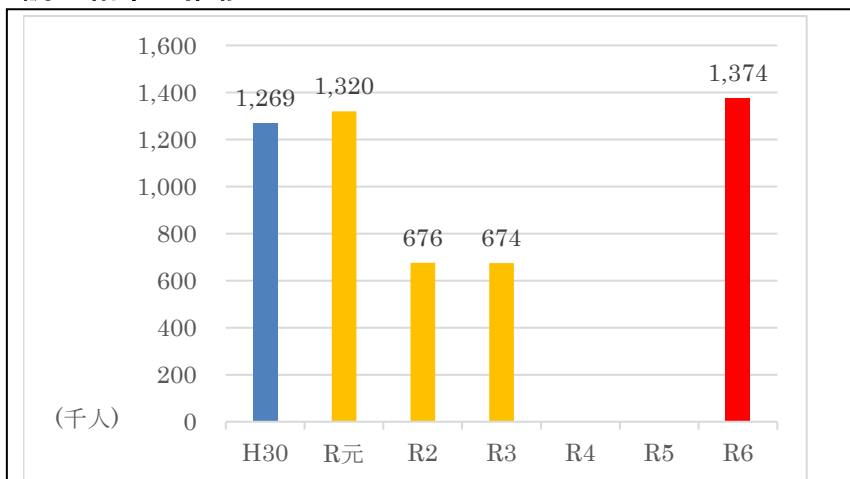
## ●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和3年度は年間通して新型コロナウイルス感染症の影響が続き、当初の目標からは程遠い結果となった。

今後も、コロナの収束時期が不透明ではあるが、渡航制限等が解除されるまでの期間で、圏域での連携した取り組みを進め、国内外に情報発信するとともに、ハード面においても多くのインバウンドを受け入れられる体制を構築していく。

「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P55～P73 参照

## ●調査結果の推移



年	(千人)
H30	1,269 (基準年値)
R元	1,320
R2	676
R3	674
R4	
R5	
R6	1,374 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

### 〈分析内容〉

中心市街地内の宿泊客数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により当初の予定どおりに実施することが困難だった。

全国的に緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用等による不要不急の外出自粛や旅行マインドの低下により、旅行者が減少したことが原因であると考えられる。

その他事業である「松江水燈路」や「松江水郷祭」「国宝松江城マラソン」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、「外国人滞在型観光促進事業補助金」も実績はなく、外国人宿泊客数の増加にはつながらなかった。「外国人観光客モニター事業」は、年間で1,140人に対し助成を行ったものの、外国人宿泊客数の大きな伸びには繋がらず中心市街地内の宿泊客数も低調となった。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間

平成30年度～令和2年度【済】

事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 通年で松江城等の常設化ライトアップ整備を行い夜の魅力を創出した。またおせわさんプロジェクト等への事業補助を行い体験コンテンツの創出をした。しかし、令和2年度・令和3年度とも新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの入国制限がかかっていたため、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図っていく。

## ②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 令和3年度は長引く新型コロナウイルス感染症の影響で全国的に旅行マインドが低下しており、PR活動などを行うが誘客につながらず、宿泊客数も前年並みとなり、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	コロナ収束期を見据えて、受入環境整備や情報発信機能をさらに強化していくことで、宿泊客数回復に向けて地盤作りをすすめていく。

## ③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを

	活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 26,000 人 【最新値】 10,852 人 外国人誘客対策事業に加え、国内誘客対策事業として各空港の冬季利用促進を図るほか、メディア等へパブリシティとして情報提供を行うほか、三大都市圏への観光プロモーション等を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客数は大幅に減少し、目標値には届かなかった。
事業の今後について	引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界とのさらなる連携強化によってスケールメリットを活かした観光誘客を推進していく。

#### ④. 民間事業者による宿泊施設の整備（松江市）

事業実施期間	令和 2 年度～
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 87,000 人 【最新値】 0 人 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が 2 件進み、令和 4 年春頃にオープン予定。
事業の今後について	令和 4 年春頃にオープン予定である宿泊施設が稼働することにより、近隣の温泉地でなく中心市街地への宿泊客増に繋がるものと考えられる。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の宿泊客数」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和 2 年 3 月以降からの大幅な落ち込みが現在も続いており、県や市独自の回復キャンペーン等の誘客施策を展開しているものの、依然として厳しい状況となっている。

海外からの渡航者が制限されているだけでなく、国内でも全国的に旅行マインドが低下しており、全国的に PR 活動など誘客活動すること自体が困難だった。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響の収束期を見据えた、受入れ環境整備を引き続き進めていき、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。